

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	京都美術工芸大学
設置者名	学校法人 二本松学院

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通 科目	学部 等 共通 科目	専門 科目	合計		
工芸学部	美術工芸学科	夜・通信		8	14	22	13	
	建築学科	夜・通信			10	18	13	
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

<a href="https://www.kyobi.ac.jp/img/pdf/2-3-1_2019.pdf">https://www.kyobi.ac.jp/img/pdf/2-3-1_2019.pdf</a> (1~5頁) 「実務経験のある教員等による授業科目一覧表」を大学ホームページ(シラバス)に公開
--

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	京都美術工芸大学
設置者名	学校法人 二本松学院

1. 理事（役員）名簿の公表方法

二本松学院ホームページ  
[https://www.kyobi.ac.jp/nihonmatsu/img/nihonmatsu/31\\_soshiki.pdf](https://www.kyobi.ac.jp/nihonmatsu/img/nihonmatsu/31_soshiki.pdf) (2頁)

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	大阪工業大学短期大学 部客員教授	2018.11.14 ～ 2022.11.13	学院全体の業務及 び財務全般
非常勤	株式会社 藤原測量設 計事務所 代表取締役	2018.11.14 ～ 2022.11.13	学院全体の業務及 び財務全般
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	京都美術工芸大学
設置者名	学校法人 二本松学院

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>・授業計画書(シラバス)の作成過程</p> <p>1月 各学科の担当教員にシラバス作成要項に基づき、<input type="checkbox"/>授業概要、<input type="checkbox"/>到達目標、<input type="checkbox"/>授業計画・内容、<input type="checkbox"/>教科書、<input type="checkbox"/>参考書・資料、<input type="checkbox"/>予習・復習指導、<input type="checkbox"/>関連科目、<input type="checkbox"/>履修上の注意、<input type="checkbox"/>成績評価の各事項について作成を依頼する。</p> <p>2月 教学委員会に諮り了承を得る。</p> <p>3月 印刷シラバス及びWebシラバスを学生・教職員に公開</p>	
授業計画書の公表方法	<p><a href="https://www.kyobi.ac.jp/about/public_information/">https://www.kyobi.ac.jp/about/public_information/</a> 大学ホームページで公表している。</p>
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>各授業科目の成績評価方法については、シラバス作成要項に基づき授業科目の成績評価等を作成している。各担当教員が単位を付与する場合には、どのような観点か評価のポイントになるのか具体的に記載するよう要請すると同時に、提出されたすべてのシラバスを学科長が第三者的立場でチェックを行うこととしている。その成績評価方法は、レポートや定期試験等の点数配分に基づく。また、合格基準となる合計点数を示した科目では、レポートや定期試験等と学生の受講態度との合算結果を100点満点で各教員が評価する。</p> <p>進級に伴う基準としては、各学科の専門演習・実習科目については、知識、技術の積み上げの側面が多いため、進級時に当該年次の単位が修得できていない学生は留年にすることにしている。また、卒業認定基準は当然のこと、卒業要件である単位を各科目区分ごとに取得していなければ留年としている。</p> <p>学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、履修を認定していると言える。</p>	

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

GPAを導入して学びの質を評価しており、学生の1年間の学修状況を確認する資料にGPAを活用している。具体には、学生との学年面談を通して個別学修状況を確認する資料として、単位修得状況に加えて、前期と後期のGPAを比較し、学生の学習意欲を把握できる資料として学生指導に生かしている。

### ▶ 成績等の表示および成績評価基準

区分	評価	成績評価基準	GP	評価内容 (英文内容)
合格	秀	100～90点	4	特に優れた成績を表す。 (Excellent)
	優	89～80点	3	優れた成績を表す。 (Very Good)
	良	79～70点	2	妥当と認められる成績を表す。 (Good)
	可	69～60点	1	合格と認められる最低限の成績を表す。 (Satisfactory)
不合格	不可	59点以下	0	合格と認められる最低限の成績に達していないことを表す。 (Failure)
GP	認	単位認定科目	—	転編入や留学などにより他大学等で修得した科目を本学の単位として認定したことを表す。 (Credits Transferred)
対象外	W	履修中止	—	所定の手続きを経て、履修を中止したことを表す。 (Withdrawal)

### ▶ GPAの算出方法

$$4.0 \times \text{秀の修得単位数} + 3.0 \times \text{優の修得単位数} + 2.0 \times \text{良の修得単位数} + 1.0 \times \text{可の修得単位数}$$

総履修登録単位数 (「不可」の単位数を含む)

(注1) 「認 (単位認定科目)」、「W (履修中止)」は、計算式に含まない。また、博物館学芸員養成科目など卒業所要単位に算入しない科目は、GPAの算出の対象としない。

(注2) 「総履修登録単位数」には、不合格科目 (不可評価) を再履修し、合格の評価を得た場合および再履修の結果再び不可評価であった場合の、それぞれ再履修前の不可評価については、通算のGPAには算入しない。ただし、学期ごとに算出するGPAにはそれぞれ算入する。

(注3) GPAは、小数点第4位を四捨五入し、小数点第3位までの数値で、次のとおり成績通知表および成績証明書に記載する。

成績通知表 …… 学期ごとのGPA、通算のGPA

成績証明書 …… 通算のGPA

客観的な指標の  
算出方法の公表方法

[https://www.kyobi.ac.jp/img/pdf/2-8-1\\_2019.pdf](https://www.kyobi.ac.jp/img/pdf/2-8-1_2019.pdf) (76～77頁)  
大学ホームページ・学生便覧・大学概要で公表している。

<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p>	
<p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>本学では、教育目標として謳っている、「社会人基礎力」「学士力」「職業実践力」の三つの力は様々な教養・知識・経験から成り立っている。そこで本学では教育上の目的をより明確化するために、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシーを定めている。そして、さらに各学科の三つのポリシーを定め大学ホームページ等を通じて周知を図っている。</p> <p>大科目区分分類として教養教育科目及び専門教育科目に分ける。教養教育科目区分に含まれているコミュニケーション科目及びキャリア形成科目が学生の成長に大きく寄与している。教養教育科目として42単位以上が必要であり〔内訳 教養科目:22単位以上選択・伝統文化科目:必修4単位を含む8単位以上選択・コミュニケーション科目:必修2単位を含む6単位以上選択・キャリア形成科目:6単位以上選択〕、専門教育科目として82単位以上必要であり〔内訳 美術工芸科目のうち51単位(建築学科)又は48単位(美術工芸学科)以上を基本科目、基幹科目、展開科目から選択する。専門演習・実習科目の中に卒業制作を含めて31単位(建築学科)又は34単位(美術工芸学科)〕124単位以上を履修することが必要である。</p> <p>所定の期間在学し、所定の単位数を修得した学生に対して学士の学位を授与することとしている。</p> <p>なお、学生には、入学時のガイダンスにおいて学生便覧に掲載している履修モデル等をおして履修ガイダンスを適切に実施している。</p>	
卒業の認定に関する方針の公表方法	<p><a href="https://www.kyobi.ac.jp/about/public_information/">https://www.kyobi.ac.jp/about/public_information/</a> 大学ホームページ・学生便覧・大学概要で公表している。</p>

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	京都美術工芸大学
設置者名	学校法人 二本松学院

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	<a href="https://www.kyobi.ac.jp/nihonmatsu/img/nihonmatsu/30_financial01.pdf">https://www.kyobi.ac.jp/nihonmatsu/img/nihonmatsu/30_financial01.pdf</a> (5頁)
収支計算書又は損益計算書	<a href="https://www.kyobi.ac.jp/nihonmatsu/img/nihonmatsu/30_financial01.pdf">https://www.kyobi.ac.jp/nihonmatsu/img/nihonmatsu/30_financial01.pdf</a> (2頁)
財産目録	<a href="https://www.kyobi.ac.jp/nihonmatsu/img/nihonmatsu/30_financial01.pdf">https://www.kyobi.ac.jp/nihonmatsu/img/nihonmatsu/30_financial01.pdf</a> (1頁)
事業報告書	<a href="https://www.kyobi.ac.jp/nihonmatsu/img/nihonmatsu/30_report01.pdf">https://www.kyobi.ac.jp/nihonmatsu/img/nihonmatsu/30_report01.pdf</a>
監事による監査報告(書)	<a href="https://www.kyobi.ac.jp/nihonmatsu/img/nihonmatsu/30_financial01.pdf">https://www.kyobi.ac.jp/nihonmatsu/img/nihonmatsu/30_financial01.pdf</a> (6頁)

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:平成31年度事業計画 対象年度:平成31年度)
公表方法:学校法人 二本松学院ホームページ
中長期計画(名称:二本松学院の中長期計画、京都美術工芸大学の中長期計画 ※事業計画書の中の9~10頁に記載 対象年度:2019~2040年度)
公表方法: <a href="https://www.kyobi.ac.jp/nihonmatsu/img/nihonmatsu/31_plan01.pdf">https://www.kyobi.ac.jp/nihonmatsu/img/nihonmatsu/31_plan01.pdf</a> (9~10頁)

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: <a href="https://www.kyobi.ac.jp/nihonmatsu/img/nihonmatsu/30_self03.pdf">https://www.kyobi.ac.jp/nihonmatsu/img/nihonmatsu/30_self03.pdf</a>
---

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: <a href="http://www.jiheer.or.jp/achievement/archive_year/">http://www.jiheer.or.jp/achievement/archive_year/</a>
---

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 工芸学部
教育研究上の目的 (公表方法 : <a href="https://www.kyobi.ac.jp/about/public_information/">https://www.kyobi.ac.jp/about/public_information/</a> 大学ホームページ・学生便覧・大学概要で公表している。)
(概要) 世界を代表する美術工芸文化が息づく京都で、我が国の伝統と文化を尊重し、その継承と文化の創造を担う有為な人材を育成するため、美術工芸に係る教育・研究を行い、併せて教養を身に付けた専門職業人を育てることにより、国家・社会の発展に貢献する。
卒業の認定に関する方針 (公表方法 : <a href="https://www.kyobi.ac.jp/about/public_information/">https://www.kyobi.ac.jp/about/public_information/</a> 大学ホームページ・学生便覧で公表している。)
(概要) 本学のディプロマ・ポリシーに掲げる素養を身につけた学生に対して所定の期間在学し、所定の単位数を修得することにより、学士の学位を授与する。 詳細な履修及び単位については学生便覧の履修の手引きによりきめ細かに指導している。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法 : <a href="https://www.kyobi.ac.jp/about/public_information/">https://www.kyobi.ac.jp/about/public_information/</a> 大学ホームページ・学生便覧で公表している。)
(概要) 本学のカリキュラム・ポリシーにはディプロマ・ポリシーに掲げる素養を修得させるために、下記の方針で教育課程を編成、実施する。 ①教養教育科目、専門教育課程及びその他必要な科目を体系的に編成する。 ②教育目的に合わせて、講義、演習、実習等を適切に組み合わせる。 ③職業実践的な教育内容、協調性やコミュニケーション力を高める教育内容を適切に盛り込む。
入学者の受入れに関する方針 (公表方法 : <a href="https://www.kyobi.ac.jp/about/public_information/">https://www.kyobi.ac.jp/about/public_information/</a> 大学ホームページ・入学試験要項&入試ガイド等で公表している。)
(概要) 本学のアドミッション・ポリシーに大学の理念、教育目的を理解し、常に自己の可能性を追求していく持続性と熱意を持ち合わせ、真摯に学業に励むことのできる素養を持った学生を求める。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法 : <a href="https://www.kyobi.ac.jp/about/public_information/">https://www.kyobi.ac.jp/about/public_information/</a> 大学ホームページ・学生便覧で公表している。
---

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	2人	—					2人
工芸学部	—	14人	5人	7人	3人	人	29人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
0人		47人					47人
各教員の有する学位及び業績 (教員データベース等)		公表方法： <a href="https://www.kyobi.ac.jp/subject/teacher/">https://www.kyobi.ac.jp/subject/teacher/</a> 大学ホームページで公表している。					
c. F D（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
<p>F D活動は「教員が授業内容・方法を改善し向上させるための組織的な取り組み」であることから、本学は推進体制として、学長を委員長とする「F D推進委員会」を設置している。現在は、自己点検・評価委員会と合同で実施しており学生による授業評価の活用及び大学コンソーシアム京都で開かれる教育内容改善に関する研修講演会への出席などにより教員の教育技法の改善を行っている。</p>							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
工芸学部	250人	273人	109.20%	710人	696人	98.02%	10人	2人
合計	250人	273人	109.20%	710人	696人	98.02%	10人	2人
(備考)								

b. 卒業者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
工芸学部	82人 (100%)	2人 (2.4%)	62人 (75.6%)	18人 (22.0%)
合計	82人 (100%)	2人 (2.4%)	62人 (75.6%)	18人 (22.0%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
主な進学先：京都工芸繊維大学大学院・鳴門教育大学大学院等 主な就職先：積水ハウス(株)・東日本旅客鉄道(株)・(株)池下設計・(株)金剛組・南丹市役所・ (株)エー・ティ・エー等				
(備考)				



c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業者数	留年者数	中途退学者数	その他
工芸学部	99人 (100%)	79人 (79.8%)	1人 (1.0%)	19人 (19.2%)	0人 (0%)
合計	99人 (100%)	79人 (79.8%)	1人 (1.0%)	19人 (19.2%)	0人 (0%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業計画書(シラバス)の作成過程</li> <li>1月 各学科の担当教員にシラバス作成要項に基づき、<input type="checkbox"/>授業概要、<input type="checkbox"/>到達目標、<input type="checkbox"/>授業計画・内容、<input type="checkbox"/>教科書、<input type="checkbox"/>参考書・資料、<input type="checkbox"/>予習・復習指導、<input type="checkbox"/>関連科目、<input type="checkbox"/>履修上の注意、<input type="checkbox"/>成績評価の各事項について作成を依頼する。</li> <li>2月 教学委員会に諮り了承を得る。</li> <li>3月 印刷シラバス及びWebシラバスを学生・教職員に公開</li> <li>3月 新入生・在学生ガイダンス</li> <li>4月 入学式・授業開始</li> </ul>

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要)
<p>成績評価方法は、レポートや定期試験等の点数配分又は、合格基準となる合計点数を示した科目では、レポートや定期試験等と学生の受講態度との合算結果を100点満点で各教員が評価する。</p> <p>進級に伴う基準としては、各学科の専門演習・実習科目については、知識、技術の積み上げの側面が多いため、進級時に当該年次の単位が修得できていない学生は留年にするようにしている。また、卒業認定基準は当然のこと、卒業要件である単位を各科目区分ごとに取得していなければ留年としている。</p> <p>大科目区分分類として教養教育科目及び専門教育科目に分ける。教養教育科目区分に含まれているコミュニケーション科目及びキャリア形成科目が学生の成長に大きく寄与している。</p> <p>教養教育科目として42単位以上が必要であり〔内訳 ・教養科目:22単位以上選択・伝統文化科目:必修4単位を含む8単位以上選択・コミュニケーション科目:必修2単位を含む6単位以上選択・キャリア形成科目:6単位以上選択〕、専門教育科目として82単位以上必要であり〔内訳 美術工芸科目のうち51単位(建築学科)又は48単位(美術工芸学科)以上を基本科目、基幹科目、展開科目から選択する。専門演習・実習科目の中に卒業制作を含めて31単位(建築学科)又は34単位(美術工芸学科)〕124単位以上を履修することが必要である。</p>

学部名	学科名	卒業に必要となる 単位数	G P A制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
工芸学部	美術工芸学科	124 単位	有・無	単位
	建築学科	124 単位	有・無	単位
G P Aの活用状況 (任意記載事項)		公表方法 :		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法 :		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法 : <a href="https://www.kyobi.ac.jp/about/public_information/">https://www.kyobi.ac.jp/about/public_information/</a> 大学ホームページ・学生便覧で公表している。
---

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
工芸学部	美術工芸 学科	1,190,000 円	150,000 円	360,000 円	
	建築学科	1,190,000 円	150,000 円	360,000 円	

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組 (概要) 学生生活をより充実したものとするため、オフィスアワー、クラスアドバイザー、学生面談、健康管理、心理カウンセラー、心理相談などによって収集した学生の情報を一元化・共有して学生のニーズに合致した適切な支援を行っている。 オフィスアワー、クラスアドバイザー、学生面談をとおして単位修得、学習の方法等を支援している。
b. 進路選択に係る支援に関する取組 (概要) インターンシップや求人情報を開示するほか、3年生を対象に週1回、「キャリア支援講座」を開講している。企業・業界研究の進め方やエントリーシート、履歴書の書き方指導、面接や筆記試験などの対策を実施している。学生に基本的な知識や心構えなどをまとめた「就活ハンドブック」を配付し、就職に対する意識と意欲が高まるように努めている。一方で、積極的に企業からの訪問を受けたり訪問したりしながら情報収集や企業との関係強化にも努め、適正な就職先の確保に力を注いでいる。
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組 (概要) 学生の健康面の支援として、毎年5月に健康診断を実施している。(受診率は平均90%である。)医務室に看護師が週3日医務に関わる業務を行っている。 学生の精神面の支援として、臨床心理士・大学カウンセラー資格を持ったカウンセラーが週1日予約のあった学生の相談を行っている。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：[https://www.kyobi.ac.jp/about/public\\_information/](https://www.kyobi.ac.jp/about/public_information/)  
大学ホームページ・学生便覧で公表している。